

『地元の水川目町内会の皆さまに当社施設をご視察いただきました』

むつ下北の長い冬も終わりを告げ、ようやく春の陽気となってきました。

4月10日、RFS・リサイクル燃料備蓄センターがある水川目地区の町内会の皆さまに、同センターをご視察いただきました。

当社は、平成13年に東京電力㈱むつ調査所がリサイクル燃料備蓄センターの立地調査をむつ市で開始して以降、むつ市の皆さまのご理解とご協力を賜りながら、今日に至っています。

本社を水川目地区に移転して以降、これまでもむつ市内の町内会長の皆さま、オピニオン・リーダーや各種団体の皆さまなどに当センターをご視察いただき、当社事業について理解を深めていただいています。

4月10日には、当センターがある水川目地区の町内会の皆さま（17名）に、ご視察をいただきました。当社事業を取り巻く最近の情勢について説明するとともに、センター内の現況をご覧いただきました。

説明に先立ち、峯雅夫社長より、「地元水川目町内会の皆さまには、日頃より当社事業にご理解ご協力をいただきありがとうございます。当社事業は、地域の皆さまのご理解ご協力があってこそ成り立つものであります。皆さまの思いや信頼にお応えできるよう、安全への取り組みと情報公開を徹底し、平成30年後半の事業開始にむけて全社員一丸となって取り組んでまいります」と挨拶し、お忙しい中ご視察いただいたお礼と日ごろのご理解ご協力への感謝を申し上げます。

現場視察の後、参加者の方から、当社の事業開始や施設の状況、エネルギー政策に関してのご質問ご意見をいただきました。



事業概要説明時の様子



貯蔵建屋ご視察の様子

当社は、安全性向上への取り組みに終わりはないという意識の下、安全を第一義として事業を進めるとともに、地域の皆さまと共に歩んでまいります。